



Safety Mail

● 滋賀県警察本部交通企画課 ●

県内の交通事故発生状況

《平成29年9月末現在の人身事故》

	件数	死者	傷者
本年	3,562	38	4,522
前年	3,842	42	4,809
増減	-280	-4	-287

〈高齢者の事故〉

※高齢者…65歳以上をいう



	件数	死者	傷者
本年	992	18	585
前年	1,060	20	622
増減	-68	-2	-37

薄暗い夕暮れ時は視認性が悪くなるため、他の車に自車の存在を知らせることが効果的です。早めにヘッドライトを点灯させると周囲の車に対してしっかりと自車を認識させることができますので、他の車から見落とされて事故に巻き込まれてしまうといった危険性が減ります。また、ヘッドライトを点けることで歩行者・自転車に早く気づけるだけでなく、歩行者などに車が近づいていることを知らせる役割も果たせるでしょう。

他山の石(車×歩行者事故)

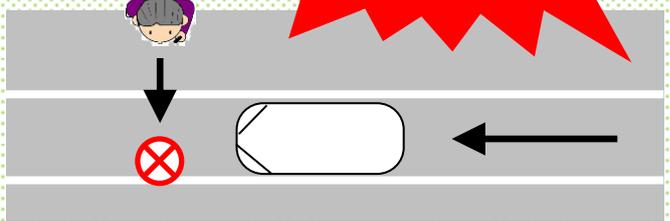
《死亡事故事例》

横断歩行者 × 車
(横断の後半)

高齢歩行者は横断の後半に、歩行者側からみて左側から走行して来た車に衝突されるケースが圧倒的に多くなっています。接近する車との距離や、走行速度を高齢歩行者が正しく認識せずに横断を開始してしまったことが、主な要因と考えられます。

~~まだ遠くにいる、今のうちに渡ろう~~

高齢者事故の特徴



ここが重要!

注意をかたよらせない

右からの横断歩行者を予測する

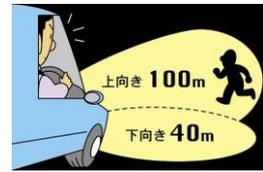
夜間運転では、対抗の交差車両のヘッドライトや店舗の照明など、明るい箇所に視線が向きがちになるので、明かりの届かない暗い箇所にも目を向け、早めの危険発見に努めましょう。

夜間は運転者から見て右から横断してくる歩行者との事故が多いので右側への目配りを欠かさずに。



交通安全の
ポイント

ヘッドライトは上向きが原則！



ヘッドライトは上向きにすると約100メートル先まで照射するため、危険を早く発見できます。前車や対向車がある場合を除き、上向きが原則です。

ヘッドライトは前方しか照らさないため、急なカーブでは進行方向を照らしません。そのためカーブの先から歩いてくる歩行者を見落とすことがあります。ヘッドライトが照射しない場所も意識して安全確認しましょう。

交通安全の
ポイント

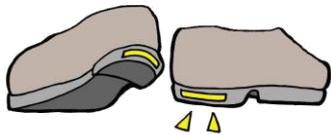
反射材の活用！

反射材の効果とは？

歩行者・自転車の方は、ドライバーから発見されやすいように

- 白や黄色など目立つ色の服装を着用
- かばんや靴・自転車に反射材をつける
- 懐中電灯を携帯する

などして「見せる」工夫を心がけましょう。



靴のかかと
は効果的！



交通安全 ○× クイズ



頑張
って！

- 【第1問】 自動車は、自転車が自転車横断帯を横断しようとしている時は、その自転車横断帯の直前で一時停止して、自転車に道を譲らなければならない。
- 【第2問】 バス停留所の標示板から10メートル以内の場所は、バスの運行時間内は駐停車禁止である。
- 【第3問】 ハイドロプレーニング現象が起こったときは、ただちに急ブレーキをかけるとうい。
- 【第4問】 環状交差点に進入する車両は、交差点内を通行する車両等を妨げてはならない。
- 【第5問】 優先道路に入ろうとする場合は徐行して、優先道路を通行している車の進行を妨げてはならない。
- 【第6問】 高速道路の本線車道では、転回は禁止されているが、後退は禁止されていない。

事業所内に掲示するなど、多くの方々にご覧いただけるようご協力ください。

TEL 077-522-1231 (代表) Eメール x0022@police.pref.shiga.jp